

日清製粉グループ 第3四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

[平成30年3月期第3四半期連結累計期間決算]

売上高 4,025億50百万円(前年同期比 99.0%)
経常利益 260億3百万円(前年同期比109.6%)

(株)日清製粉グループ本社(社長:見目 信樹)の平成30年3月期第3四半期連結累計期間につきましては、企業収益や雇用・所得環境の改善、設備投資の増加等により景気は緩やかに回復し、消費は持ち直しの動きも見られました。一方で、消費者の節約志向の継続や人手不足による人件費の高騰、不安定な海外情勢等の懸念材料も見られました。

このような中、当社グループは、各事業会社間の連携強化によりシナジーを創出し、「総合力」の発揮による更なる成長を目指しております。この方針のもと、2020年度を最終年度とする経営計画「NNI-120 II」に基づき、コア事業の収益基盤の再構築に注力すると同時に、買収事業を含む各事業の自立的成長と、新規戦略投資等の実行により、着実な利益成長に向けた取組みを進めております。また、株主還元の一層の積極化に取り組んでおり、上限を100億円とした自己株式取得を行いました。

各事業におきましては、市場の活性化に向け積極的な新製品の上市・拡販に取り組むとともに、最適な生産体制の構築等、国内外におけるコスト競争力の確保及び事業基盤の強化に努め、海外事業の拡大にも引き続き取り組みました。また、スポーツや各種イベントへの協賛等を通じた広告宣伝活動を展開しました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、前年の小麦粉価格引下げの影響及び子会社の株式譲渡に伴う連結除外の影響等により、4,025億50百万円(前年同期比99.0%)となりました。利益面では、生活者のニーズにあった高付加価値製品の出荷拡大、コストダウンをはじめとした収益向上施策のほか、広告宣伝費の第4四半期へのずれこみもあり、営業利益は218億81百万円(前年同期比111.4%)、経常利益は260億3百万円(前年同期比109.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は180億87百万円(前年同期比114.9%)と増益となりました。

[平成30年3月期通期連結業績予想]

当社グループは小麦粉をはじめとする安全・安心な「食」の安定供給という使命を果たしてまいります。また、経営計画「NNI-120 II」で策定した戦略を着実に遂行してまいります。その中で、各事業におきましては、高付加価値・新機軸の新製品の開発、広告宣伝活動等の販売促進施策、生産性向上等のコスト削減に取り組むとともに、海外事業の拡大を推進してまいります。さらに、10年先、20年先の環境変化を見据えた当社グループの「あるべき姿」「ありたい姿」を描き、グループの「総合力」を発揮して成長・発展していく長期経営計画の策定を進めております。

平成30年3月期の業績見通しにつきましては、平成29年5月12日に公表した当初の予想での想定に比べて、食品事業の高付加価値製品の出荷が好調であること、その他事業のエンジニアリング事業のプラント工事の受注が増加していること等により、売上高は5,400億円(前期比101.5%)、営業利益は267億円(前期比104.7%)、経常利益は310億円(前期比102.2%)、親会社株主に帰属する当期純利益は212億円(前期比108.9%)と、当初の予想を修正しております。

当期の期末配当につきましては、1株あたり14円を予定しておりましたが、連結ベースでの配当性向を40%以上とする経営計画の基本方針のもと、前述の業績見通しの修正を踏まえ、1株あたり配当予想を1円増額の15円(前期より2円増額)へ修正します。これにより、年間配当は前期より3円増額の29円となり、実質的に5期連続の増配となる予定であります。